

2019年7月8日 スペースたんぽぽ 講座番号 576

新ちよぼゼミシリーズ「オルタナティブな日本を目指して」(ちよぼちよぼ市民によるちよぼちよぼ市民のためのゼミナール) 第30回

福島原発事故と初期被ばく

講師：榊原崇仁(さかきばら たかひと)さん

東京新聞特報部記者 北陸中日新聞の記者のとき、原子力防災対策や安全審査の経緯など志賀原発にかかわる問題点を追及。2013年8月から東京新聞「こちら特報部」を担当。

2019年1月～3月「こちら特報部」の「背信の果て」シリーズ 消えた双葉町の「100ミリシーベルトの少女」、原発事故「放射線影響ないから研究を」など執筆。

東日本大震災と福島第一原発事故から早8年が過ぎました。政府は放射能や被ばくの危険性を矮小化したり、ゴマカしたりしながら震災復興の演出を行い、原発事故の影響はもう終わったことにしようとする背信的な振る舞いを続けています。しかし、放射能汚染の実態はまだまだひどいものがあり、恒常的な低線量被曝(外部被曝・内部被曝)の下で多くの地域住民が将来へ向けて健康上の懸念や不安を抱えています。加えて原発事故直後の政府の住民対策が極めて劣悪だったために、多くの地域住民は放射能が大量に原発から放出されているまさにその時に無用の初期被ばくを大量にさせられてしまった可能性が高いのです。今回は、現状における放射能汚染と被ばくの問題を事実にして適切に認識することを目的に、原発事故後に隠されていた事実を徹底した取材と緻密な調査により解明し、東京新聞特報部で大活躍中の榊原崇仁さんにおいでいただき「福島原発事故と初期被ばく」のテーマでお話をさせていただきます。乞うご期待です。

7月8日(月) 18時～21時(開場17時30分)

会場：スペースたんぽぽ 参加費(資料代含む)：800円(学生400円)

たんぽぽ舎のあるダイナミックビルの4階 JR水道橋駅西口から5分：水道橋西通りを神保町方面に向けて左折、グローバルスポーツビル、GS跡地(セブンイレブン)を過ぎて鉄建建設本社ビルを過ぎたら左折。

東京都千代田区神田三崎町2-6-2 tel 03-3238-9035 fax 03-3238-0797

Email: nonukes@tanpoposya.net URL: <http://www.tanpoposya.com/>

